

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 大阪私立羽衣学園高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒592-0003 大阪府高石市東羽衣1-11-57

E-mail : hagoromo@hagoromogakuen.ed.jp

Website : http://www.hagoromogakuen.ed.jp/

児童生徒数：男子 名 女子 名 合計 名
 児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（モラル）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

活動報告1 国際理解と平和教育と情報教育（継続の部分と新規の部分あり）

- ・実施時期 2016年4月～2017年3月
- ・事業形態 対象者 高校2・3年生
- ・他機関等との連携 文部科学省ユネスコ国内委員会・社団法人日本ユネスコ協会連盟
ユネスコアジア文化センター NPO 団体
- ・目的・目標

世界の教育問題を軸にして、世界寺子屋運動のポスターやパンフレット作成を、情報の授業などで実施し、情報活用の実践力の育成をはかるとともに、教育の重要性や寺子屋運動の意義を学び、国際理解、平和教育の一助とする。さらに発展として、実際のボランティア活動へつなげる。また交流時に必要な英語・ディスカッション・コミュニケーション・分析の能力を身につける。

- ・概要 学習のねらいとしては、世界寺子屋運動への支援を通して出会った人やものに関わりを持つ中で、情報教育、国際理解、平和教育、人権教育などを推進し、総合的な学習の時間がめざす、自ら学び自ら考える力など全人的な生きる力の育成を図ります。また、世界寺子屋運動をより多くの皆さんに理解してもらうための効果的なリーフレットの要件やデザインを考え、追及する活動を通して、より分かりやすく印象的に伝える方法を学び、情報活用能力を育成します。

教科 情報での取り組み

(1学期) 概要についての説明

アフリカやアジアの地域の学校関係のビデオを見る。

ユネスコについて知る。寺子屋運動や貧困問題について知る。

- 具体的・効果的な方法を考える
- 他校との交流で意見交換する（外国の生徒とも意見交換する）
- リーフレット作りについて学習する。

(2学期) リフレットを実際に作成する。

- 他校との交流で意見交換する
- 作成したリーフレットを使って校内で活動を行う。
- 近隣の学校にも呼びかけて活動の輪をひろげる
- 専門家を授業にまねきワークショップを行う。
- 学園祭で展示発表をする。
- TV会議を用いて 小学生と交流する。

(3学期) 振り返り

配布先の生徒や先生に意見を聞き 改善していく。

相互評価を実施する。

研究の成果 日本では考えられないことですが、文字を読んだり書いたりできない、学びたくても学べない子どもたちがいる現状と出会い、向き合う参加校の子どもたちと教師が一緒になって、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かねばならない」というユネスコ憲章前文の理念に迫るプロジェクト学習になったと思います。

- (1) 世界諸地域の文化の多様性について理解・分析することができた。
- (2) 世界の中の日本人としての自覚を持ち、国際的視野に立つことができた。
- (3) ユネスコや国際連合の役割について理解することができた。
- (4) 発展途上国の歴史やまた 人権について正しく理解することができた。
- (5) わかりやすいパンフレットを作成することができた。
- (6) インターネット検索をすばやく行いつつ確かな情報を収集することができた。
- (7) 物事をいろいろな角度から見て考えることができた。(いいところ、悪いところ)

活動報告2 異文化理解とコミュニケーション能力の育成（継続）

- ・実施時期 2016年4月～2017年3月
- ・事業形態 対象者 高校2年生
- ・他機関等との連携 卒業生・私立大学
- ・目的・目標

コミュニケーションスタイルのちがいの背景には、文化の違いがあること、また非言語（ノンバーバル）なコミュニケーションの存在を意識することで、言葉でなくても気持ちを伝えることができること理解する。

・概要

教科 総合的学習での取り組み

- (1講座目)コミュニケーション 文化やコミュニケーション方法が違うことで起こる誤解などを考える
- (2講座目)コミュニケーション 言語以外のコミュニケーションのとり方を知る。
- (3講座目)異文化理解 留学生の立場から 留学生の主張を聞き、国際交流や異文化理解で大事なことについて考える。
- (4講座目)コミュニケーション 3つのコミュニケーションを知る。
- (5講座目)異文化理解ワークショップに向けて 次回のワークショップに向けて インドネシア・中国・タイ・韓国・ベトナムのグループ別 事前学習
- (6講座目)異文化理解 ワークショップ 専門にアジアの言語を教える方々を招き その国の言語や文化について知る。
- (7講座目)修学旅行事前学習 アボリジニーの文化を学ぶ
英語の問題集で学ぶ・ビデオ学習でオーストラリアの先住民の文化に触れ、文化相対主義の考え方について学ぶ。
- (8講座目)修学旅行事後学習 コミュニケーションの実際
オーストラリア現地でのコミュニケーションについて振り返り、またその違いなどについて学ぶ。

研究の成果

この活動は高校2年生が全員体験する活動です。修学旅行がオーストラリアのメルボルンでのファームステイを含むため、多くの事前学習をそれまでに経験する。現地の水の問題や生活の問題などにも踏み込んで学習する。ファームステイでは指示まちではなく、自分ですすめていく自律性をもち、またその結果に責任をもつ力、一方で他人に対して働きかけていく力の必要性を強く感じた。また自然の大切さを実感したようだった。

活動報告3 ASP 大阪 高校生フォーラム（継続と新規）

- ・実施時期 2016年4月～2017年3月
- ・事業形態 対象者 高校1・2・3年生
- ・他機関等との連携 文部科学省ユネスコ国内委員会、大阪府立大学・財団法人日本ユネスコアジア文化センター<ACCU>、
後援；大阪府教育委員会、海外ネットワーク参加国：韓国(上黨高等学校)、中国(中国人民大学附属高校) 他・プログラム概要

このフォーラムは、最初は2014年に日本で開催された「DESD 最終年会合」での政府閣僚級会議（愛知）に合わせて実施された“UNESCO World Forum of ASPnet High Schools”（UNESCO ASPnet 高校生世界フォーラム<開催地岡山市>）に向けた準備セミナーとして開催されました。このセミナーの特徴は、世界で行なわれているASPnet 高校生国際会議と同様、高校生自身の手によってフォーラムが運営され、参画と発信等を担うことができるスキルや心構えを育てる

ことにあります。そして、この成果を確かなものにするため、2012 年度は「東アジアフォーラム（中国、韓国、日本）」を実際に開催し、“若者世代”として共に“持続可能な未来”を考え、学びあう国際フォーラムを運営しました。

2013 年度の準備セミナーは、UNESCO ASPnet としての「7 カ国高校生国際会議」や「小中高大学生による国際ワークショップ」等の運営経験を持つ大阪府立大学／大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークが文部科学省から委託を受け、開催地の岡山市／岡山 ASPnet 加盟高校等と協力して実施するものでした。また、広く日本全国の高校生が参加して世界フォーラムを運営することができることを意図して、2013 年度の「準備セミナー」への参加を希望する高校生の募集を行ないました。そして結果 岡山での大会に参加しました。

今年度は昨年度に引き続き中国の高校生と一緒にいろいろと交流を続けました。

活動報告 4 国際理解と ICT（プログラミング）（継続）

- ・実施時期 2016 年 4 月～2017 年 3 月
- ・事業形態 対象者 高校 2 年生、
- ・他機関等との連携 DeNA
School: Indonesia SMA HS

スマホロボット「ROMO」を活用した高校生による新サービスの企画発表会

■コラボレーション授業開催の背景

- 2011 年より羽衣学園と株式会社ディー・エヌ・エー（DeNA）は、インターネットの安心・安全な利用促進のための啓発講座を毎年行ってきました。その中で、今後ますます進むインターネット社会でどのようにネットを上手く活用して生きていくかをテーマに、ネットの闇の部分だけでなく、光の部分に焦点をあて、高校生自身が事業会社と、より発展的なネットの活用について一緒に考えるような取り組みを始めたいと考えておりました。今回スマホロボット「Romo」 (<http://www.romotive.jp/>) の日本国内正規代理店であるセールス・オンデマンド株式会社（SOD）の協力を得て、「ROMO」を通じてプログラミングやアプリ制作に関する初級講座を行うコラボレーション授業を展開することになりました。

■コラボレーション授業の目的

- ・「Romo」の動作設定と利用体験を通じてスマートフォン上でのアプリケーションの仕組みを理解する。
- ・「Romo」の活用事例について高校生が自由に新サービスや新商品案を企画立案する。
- ・企画立案のプロセスにおいて、顧客ニーズの把握や顧客ニーズのマッピングなど、より実際のビジネスに近い状態での企画立案スキルの習得を DeNA が支援する。
- ・プログラミングやアプリ制作に関する初級講座を DeNA エンジニアが支援することで、スマートフォン上でのアプリケーションの仕組みなどを理解する。
- ・従来の安心・安全にインターネットを利用するための啓発授業の域を超え、産学連携でインターネットの利活用をテーマにコラボレーション授業を展開する。

■コラボレーション授業の概要：年間通じて授業を 3 回に分けて実施

<第 1 回>9 月：DeNA による企画主旨の説明。SOD による「ROMO」の紹介と「ROMO」の体験。
<第 2 回>10 月：DeNA よりシステム開発およびプログラミングについて、新商品企画にあたってのアプローチについて説明。

インドネシアの学生とコラボレーション授業実施、協働学習実施

<第 3 回>3 月：生徒による「ROMO」を活用した企画案のプレゼンテーションと表彰（DeNA 賞、ROMO 賞など）、DeNA、SOD による総評

活動報告 5 海外の学校と国内の学校とネット問題（スマホ問題）学びあい（継続）

- ・ 実施時期 2016年4月～2017年3月
- ・ 事業形態 対象者 高校1・2・3年生 ボランティア部員
- ・ 他機関等との連携 台湾高雄市教育委員会
海外：Kaohsiung Vocational industrial Senior High School（台湾高雄市）
国内：主催・共催：一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構
安心ネットづくり促進協議会 大阪私学教育情報化研究会
後援：内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省 北海道、奈良県
北海道教育委員会、奈良県教育委員会、大分県教育委員会
北海道青少年有害情報対策実行委員会
全国高等学校情報教育研究会、東京都高等学校情報教育研究会、
大阪府高等学校情報教育研究会、奈良県情報教育研究会
独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研
究所、一般社団法人全国高等学校PTA連合会、一般社団法人ソーシャルゲーム
協会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人日本スマートフォン
セキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメント
レーティング機構
協賛：グーグル株式会社、グリー株式会社、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社メ
ディア開発総研、LINE株式会社、株式会社中部トータルサービス

高校生 ICT Conference 2016 とは

高校生 ICT Conference は、2011年に「高校生熟議」として大阪でスタートしました。2013年は、北海道、東京、大阪、奈良、大分と5拠点、計51校267人の高校生が参加。高校生同志が、身近なケータイやインターネットの問題を通して、共に考え、議論し、まとめ、発表することで、コミュニケーション力とプレゼンテーション力を育む場として開催されました。さらに高校生の意見を中央に届けるべく、各地域の代表者がサミットにより提言にまとめ、内閣府、総務省、文部科学省で発表いたしました。2015年全国9拠点 2016年は全国14拠点より広い地域の、高校生ならではの意見を政府に届けるべく、開催しました。

活動報告 7 外務省絆プロジェクトからの継続企画

- ・ 実施時期 2016年4月～2017年3月
- ・ 事業形態 対象者 高校1・2年生
- ・ 他機関等との連携 日本ユネスコ協会連盟

絆プロジェクト：2013年 アジア大洋州地域及び北米地域の41の国・地域から青少年を日本へ招へいし、交流プログラムや被災地視察、ボランティア活動等を実施するとともに、日本の青少年をそれぞれの地域へ派遣することを通じ、日本再生に関する外国の理解増進を目的として、日本政府により進められた事業。このうち、カナダとの交流事業については、外務省からの拠出先である UNESCO（国際連合教育科学文化機関）から受託し、招聘に関しては公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟と財団法人日本国際協力センターが、また派遣に関しては、カナダ UNESCO 国内委員会が実施した。

本校も5月に受け入れ、10月に訪問をした。継続として翌年度より3月に約10名から20名バンクーバーへの短期研修を実施、その研修期間中に交流高校である New Westminster HS を訪問する。

活動報告 8 防災プロジェクト（新規）

- ・ 実施時期 2016年4月～2017年3月

- ・ 事業形態 対象者 高校 2 年生
- ・ 他機関等との連携 日本ユネスコ協会連盟、日本赤十字社大阪府部、気象庁（大阪）

活動のテーマ 「身近な防災から国際理解 一命と尊厳を育む」

本研究の背景と目的

本校では、協働学習の授業実践において、生徒が、さまざまな文化的・社会的背景をもつ人たちと対話しつきあっていく過程で、広い視野を獲得し、相互理解を深めることを重視してきた。現在はさらに、コミュニケーション力、協働する力、ICT リテラシー、課題解決力、創造力など、21 世紀に必要とされるさまざまなスキルや能力の養成を位置づけることをめざしている。本年度は、特に「防災」をテーマに取り組みたいと考えた。特に防災の中でも東日本大震災の記憶を風化させないこと、また身近に迫っているとされる南海地震に具体的に個人個人が備えることの大切さを知ることを今回のメインの目的と考えた。

また、自然災害は、国・地域によって様々であることから学習者が教室内ではなく、現実社会のなかで他の国・地域の同世代と交流できるようになることが小中高校の教育にとって重要だと本校では考えている。（ユネスコスクールの概念のひとつ）そこで、ICT を活用しながら、防災をテーマに他地域の生徒との継続的な交流を実現し、英語などをコミュニケーションの実践の場で使い、互いの理解を深めるとともに、協働活動を通じて多様な背景をもつ同世代とコミュニケーションする力、協働する力および ICT リテラシーを育成する実践研究に取り組むこととした。

具体的に下記 2 つを大きな目的とする

(1) 国内や海外の生徒と意見交換を実施して、自然災害は国・地域によって様々あり、それぞれの減災（防災）教育があることを理解し、具体的に個人個人が近い将来に来る南海地震に備えることの大切さを知る。（自然とのつながり）

(2) 人間のいのちと尊厳を育む

1) 災害に対して正しい知識をもち、自ら考え、判断し、危険から身を守る方法を身につける。

2) 生徒が主体的に防災に取り組めるような「気づき、考え、実行する」を重視してコミュニケーション力、想像力、創造力を養う。

3) 思いやり、優しさ、いのちの大切さを養い、未来につながるいのちを学ぶ

研究の方法

(1) 高校生が自ら自分たちで災害に配慮すべき要素を調査して身近にある問題のモデルを設定、立案し表現する。（学校から自宅までの防災（特に南海地震）時の帰宅経路のモデルを立案し、ワークシートなどをもとに作成する。）

(2) 海外のメンバーとは、テレビ会議や掲示板等を利用し、防災をテーマに英語を使って交流することで、実際のコミュニケーションで運用する力の育成をはかる。

(3) マレーシア、中国、台湾（高雄）、大阪の地域の災害の問題を共同で話することで、多様な背景をもつ同世代とコミュニケーションする力、協働する力の育成をめざす。

(4) 日本赤十字社や気象庁など他の期間と連携して映像なども活用したグループワークなども取り入れる。

3. 研究の内容と経過

活動編

5 月大阪府青少年赤十字活動 高校生代表者 会議参加（年間 3 回）

6 月台湾・高雄から教員・生徒 30 名 受け入れ ESD について学びあい
台湾の防災に関しても学ぶ 地震など共通テーマ

7 月台湾・高雄から教員・生徒 20 名 受け入れ ESD について学びあい
台湾の防災に関しても学ぶ ※7 月とは別の学校

7 月高石市姉妹都市 アメリカロミタ市 訪問団受け入れ 15 名 防災に関して議論
大阪府グローバル塾 イギリス派遣 高 3 女子 1 名

大阪ユネスコスクールネットワーク 韓国派遣 高 2 女子 1 名

8 月 台湾高雄 姉妹校 高雄工業高校から 2 名受け入れ

愛知でのワールドユースミーティング（英語プレゼン大会）

ホームステイおよび奈良訪問

- 8月 日本赤十字近畿ブロック主催 海外研修 大阪代表2名中1名マレーシア派遣高3女子
9月にクラブ内で発表。
- 8月 日本赤十字大阪支部主催 献血スクール参加 10名参加 森ノ宮血液センター
- 9月 文部科学省トビタテ留学参加 大学生6名に来ていただきワークショップ・講演会実施
本校
- 10月 学園祭にて 世界の学校の無い地域に学校をという呼びかけ！ カンボジアの生活用品
展示・募金活動
- 10月 日本赤十字大阪府支部 代表2名中1名 福島県の高校生と防災に関する交流会 2
泊3日 高2女子参加 のち 発表
- 11月 韓国から教員・生徒20名 受け入れ ESDについて学びあい
外務省GENESYS プログラム
- 11月 日本赤十字国際交流集会 Mt. Fuji 大阪代表2名中1名参加 高2女子 世界20か
国より参加 災害についての意見交換も実施 のち 発表
- 12月 日本赤十字大阪府支部 防災プログラム参加 炊き出し体験、救急法体験
10名参加 実際に特別なビニル袋にお米を入れて大きな鍋で炊く経験をして
水が不足するときにいかに暖かいご飯を食べることができるかの体験をする。
- 12月 台湾へ訪問し 現地高校生とボランティア活動について意見交換会実施 生徒14名
参加
- 1月 産学連携 エネルギー企画 関西電力、読売新聞 出前授業実施
- 2月 ワンワールドフェスティバル 発表およびボランティアスタッフ
- 2月 文部科学省トビタテ留学参加 大学生8名に来ていただきワークショップ・講演会実施
本校
- 3月 気象庁と連携した 大雨災害ワークショップ
経験したことのない大雨のとき、避難経路他、どのように対応していのちを守るかを考える

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）